

稲荷山だより

2026

夏

肺がんの早期発見

「肺がん検診」の勧め

現在、日本人の死亡原因の第一位は悪性新生物、すなわち「がん」となっており、その中で一番多いのが肺がんで、年間7万5千人以上の方が肺がんで亡くなっています。

稲荷山武田病院はホスピスとして、進行した様々ながん患者さんの緩和ケアを行っていますが、その中でも肺がんの患者さんが多くおられます。

肺がんは、早期の段階で発見して、手術などで適切な治療ができれば、完全に治癒することが可能な病気ですが、進行した状態で発見された場合は、なかなか治すことが難しい病気です。肺がんに対する治療は、手術、放射線治療、薬物療法、免疫療法などの進歩により、昔と比べて治療成績はずいぶんと良好になっていますが、依然として、多くの進行肺がんでは完治させることは難しい状況です。

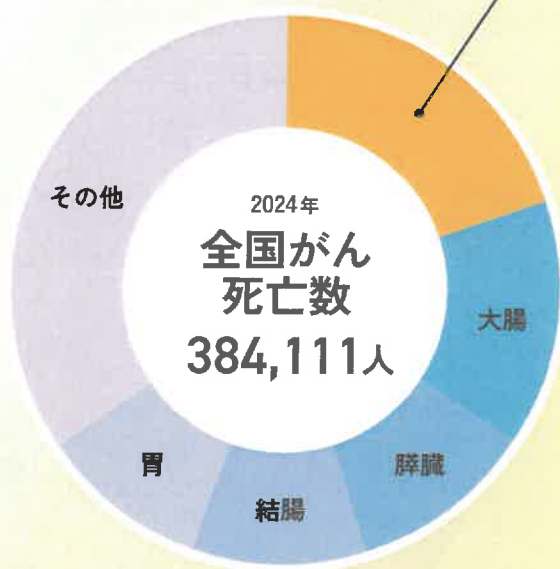
従って、少しでも肺がんで亡くなられる方を減らすためには、何よりも早期発見が重要になります。

肺がんは、初期には自覚症状がないことが多く、早期で発見される方の多くは、検診や人間ドックなどで発見されています。かかりつけ医または職場検診でも良いですが、毎年の検査を受けておられない場合は、京都府の「肺がん検診」の受診をお勧めします。京都府医師会が主導し、市町村単位で実施しています。京都府では、40才以上は無料で(市町村によっては数百円程度の負担あり)、年1回の胸部レントゲン検査での「肺がん検診」が受けられます。受診をご希望の場合は、お住まいの市区町村に問い合わせください。

がん死亡数のおよそ

5人に1人

肺 75,569人



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」
(厚生労働省人口動態統計)

副院長 塙 健